

教科名		英 語	教科書調査報告
発行者名		東京書籍	開隆堂出版
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・アルファベットのなぞり書きについて、右利きと左利きのどちらの児童にも手本が見やすいよう、左右にモデル字が配置されるなど、なぞりやすい配慮がされている。	・字が大きく見やすいため、文字の形を捉えやすく、また情報が読み取りやすくなっている。 ・「Word Book」という別冊が作成され、各学年の学習内容に合わせ、カテゴリー別に、絵や二次元コードにより音声と合わせて語句を確認できるようになっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・自分が暮らす地域の紹介や小学校生活の思い出の発表などが題材として取り上げられており、身近な話題について英語で表現できる場面が設定されている。	・内容を想起させるためのイラストや写真などの情報量が多く、コミュニケーション力を養う手助けになる。 ・巻末に、「CAN-DOチェック」という各単元での自己評価を記入するページがあり、自分の成長や課題を確かめられるようになっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・学校生活や日常生活で使う語句や会話文が取り上げられ、児童の生活に即した内容となっている。	・どの単元でも会話場面を吹き出しとイラストで提示しており、コミュニケーションのための例示が多い。 ・「世界のあいさつ」や「海外の小学生」など、様々な国の文化や子どもの様子が分かるような、国際理解に関する写真等が多い。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・「Save the animals」などのユニットを設けたり、自然や環境、児童と社会との関わり等に関する写真・イラストを取り上げたりすることで、ESDへの取り組みに対して配慮されている。	・各単元の最初のページに、他教科やSDGsとの関連が示され、ESDの視点を意識しやすい工夫がされている。 ・各単元の終わりに設定された「Story Time」では、日本や世界の名所や文化等を取り上げているものが多く、ESDの知識の涵養にもなる。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・児童が英語で記入する箇所は全て4線で記入枠が設けられており、書く力の向上に向けての学習設定がされている。 ・質問に対する答えや自分の考えを英単語や英文で記入するような設問になっており、書くことで児童自身の思考力を高める配慮がされている。	・「Story Time」という読み物を読む活動が各単元の最後に載っていて、身近な題材を取り上げた例文が多く示され、学習意欲につながる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・全校ユネスコスクールである多摩市にとって、ESDに配慮された学習内容は本市の実態に即している。	・国際理解、SDGsに関する資料が多く、全校ユネスコスクールである本市の実態に即している。

教科名		英 語	教科書調査報告
発行者名		三省堂	教育出版
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・各ページの下方にアルファベットとイラストを配し、フォニックスを意識したページ構成になっている。	・カラフルな写真や絵が多く使われているため、視覚的に理解しやすい工夫がされている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・イラストの絵が様子を具体的に表していて分かりやすいため、児童の生活に合った英語表現の獲得につなげやすい。	・単元末に「Sounds and Letters」という音声と文字の特徴を聞き取り日本語と英語の違いに気付かせるコーナーを設けることによって、聞き取りに意識が向きやすくなっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・イラストや写真、提示される会話文等がシンプルで見やすい。また、イラストの絵が具体的で、児童が身近な話題についての英語表現を学ぶことができる。	・児童がよく見ているアニメなど、世界から認知されている資料を積極的に取り入れることによって、時代に即した身近な話題を英語で表現できるようにしている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・日本の名所やおすすめの場所を話し合ったり、将来就きたい職業を話し合ったりする単元を設定していることで、持続可能な社会づくりを意識できるようになっている。	・SDGsに関連する内容を扱うコーナーでは、関連するSDGsがマークで示され、豆知識としてESDの視点から学ぶことができる。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・児童の日常生活に合った単語が多く掲載されているため、児童が主体的に語彙力を身に付けやすくなっている。	・各単元の最後には「Final Activity」という、学んだことを生かした発表・発信活動のコーナーが掲載されており、単元全体の見直しをもって学習を進めることができる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・「世界の小学校」等、外国の小学生の生活を取り上げた題材があり、全校ユネスコスクールである多摩市の小学生が、ESDの取り組みを世界に発信する際の参考とすることができる。	・「The Alphabet」や「Sounds and Letters」のコーナーを設けるなど、音と文字のつながりを意識して編集されており、本市が掲げるスローガン「日本一英語が話せる児童・生徒の育成」のために役立つ。

教科名		英 語	教科書調査報告
発行者名		光村図書出版	新興出版社啓林館
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉について考えよう」では、英語と日本語を比較して、日本語と並行して英語を学ぶことができる。 ・教科書全体を3つのパートに分けて、1つのパートごとに、「聞く・読む・やり取りする・発表する・書く」活動がバランスよく配置されていることにより、ホップ・ステップ・ジャンプの段階を追った学習で基礎・基本の定着につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に設けられた、リズムに乗って英語の発音や抑揚などを身に付ける練習コーナーの「Chant」が文字表現になっており、発音や強弱の付け方などが視覚的にも理解できるようになっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットの初めに、ゴールでの目標や中心となる活動が示され、それぞれの活動の意義が明確になることで、児童の意欲を高める工夫がされている。 ・他教科の学びを生かそうというマーク「Link・・・」があり、他教科との関連により学習を深める構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に「Activity」というコーナーが設けられ、話すときの工夫を考えさせることによって、コミュニケーションに大切なことを意識できるようになっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用しよう」というページがユニットのまとめりに設けられ、時代に即した構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の生活や子どもたちの写真が多く載せてあることで、児童自身の日本での生活と比較しながら学習することができる。 ・「Friends around the World」などのコーナーで、外国の同世代の子どもが話す映像を見ることができ、ナチュラルな英語表現に触れることができる。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の友達」や「We live together.」などの単元が設定されていることで、英語の物語の中でSDGsを意識させた構成になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活を良くするために、どんな工夫をしているかな？」のコーナーなどがあり、関連する外国の写真や資料が掲載されているため、自分たちの生活と比べやすい工夫がされている。
B 使用上の 便宜 について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「All About Me」というワークシートの活用によって、自分のことを英語で表現することができる工夫がされている。二次元コードが付いており、自分で発音を確かめながら学習をすることができる。 ・別冊の「Picture Dictionary」を活用し、自分の話をするときに単語を探しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最後に「Look Back」というコーナーが設けられ、できるようになったことや、学習したことを使いたい場面を考えさせることで、実践的なまとめができるようになっている。 ・学んだことのチェックリストがあり、自分の学びを振り返ることができる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の友達」、「We live together.」、「This is my town.」など多文化共生や生物多様性及びまちづくり等の視点から、SDGsを意識した内容が盛り込まれた構成になっており、全校がユネスコスクールである本市の実態に即している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを利用して文字と音との関係を学べるようになっていたり、「Chant」では発音の強弱等を視覚的に示したりするなど、音と文字のつながりを意識して編集されており、本市が掲げるスローガン「日本一英語が話せる児童・生徒の育成」のために役立つ。